

学位（博士）論文要旨

看護学専攻 理論看護学分野 基礎看護学教育研究領域	学籍番号 0733001 氏名 中條 和子
論文題目	病院管理・看護管理実践における看護管理者の認識の構造
<p>Keywords：副院長・看護部長、看護管理、判断規準、看護理論、認識の構造</p> <p>本研究は、病院長との共通の目標（医師と看護師が車の両輪になる病院をつくろう）に向かって副院長・看護部長として歩んだ15年間の自己の管理実践上の判断過程における理論的根拠をさぐり、看護管理者としての認識の構造を明らかにすることを目的とする。研究方法は看護理論（看護とは、生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである・対象に三重の関心を注ぐ）に導かれて実践した自己の病院管理・看護管理の実践内容を、膨大な諸記録から浮き彫りにし、時系列に沿って整理し、経過一覧を作成して研究資料とした。ついで、組織に変化をもたらした取り組み全体を見渡せるようにして、社会的変化を重ねて経過表を作成した。取り組みの特徴に変化があった時期ごとに着目して5期に分け、各期ごとの管理者の認識を明らかにするために、「管理者が着目した事実」「管理者の判断」「管理者の行動」の項目をもつ素材フォーマットを作成し、各期ごとの資料からキイセンテンスを取り出して記入し、研究素材を作成した。分析は、実践内容をたどりながら管理者が捉えた事実と判断から、管理者の認識の特徴を抽出する。分析した結果、管理者の認識の特徴は、対象をひとりの人間としてみつめ、対象に三重の関心を注ぎながらよい変化をもたらした看護実践をスタッフに伝え、看護部全体に広げ、そして新人看護師の教育に導入し、さらに病院全体に拡大していった歩みであることがわかった。そして、その判断根拠は、ナイチンゲールの文献から得られた「病院とは」「看護とは」「看護管理とは」の一般論と重なることが明らかとなった。そこで、これらの一般論を管理実践に適用しやすくするために、管理実践内容をナイチンゲールの判断規準に照らして病院管理・看護管理実践上の指針を抽出したところ、病院管理実践上の指針8項目、看護管理実践上の指針15項目を抽出することができた。今後、実践に適用し汎用化を図りたい。</p>	

指導教員氏名（自署）：

薄井坦子

平成 22 年 2 月 1 日

宮崎県立看護大学大学院
研究科長 薄井 坦子 様

学位論文（修士・博士）審査委員

主査 氏名（自署）薄井 坦子

副査 氏名（自署）大名門 裕子

副査 氏名（自署）新田 なつ子

副査 氏名（自署）石地 裕二

学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文（修士・博士）の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

記

学生氏名	中條 和子		学籍番号	0733001	
看護学専攻	理論看護学		指導教授氏名	薄井 坦子	
成績 評価	学位 論文	合格	最終 試験	合格	
論文 題目	病院管理・看護管理実践における看護管理者の認識の構造				
審査 要旨	<p>予備審査では、一貫した理念をもって取り組んだ管理実践の内容が評価されたが、それを導いた認識の事実的な裏づけが不十分であり、全実践過程を社会的変化と重ねて見直し、認識の構造分析を進めるよう求められた。</p> <p>本審査では、15年間の医療・看護現象を、管理者の認識と行動との連関において資料化し、その時々判断過程における理論的根拠を抽出し、それらの判断過程が、病院および看護の質的向上に寄与してきた事実を示した。分析の結果、看護管理者の認識の構造は、患者を取り巻く諸現象が、ナイチンゲールの説く看護一般、病院一般、看護管理一般と重なって表象化されて具体化への方向を示していたこと、その実現に向けて病院長との共通認識のもと、看護師および患者と関わるすべての職種に共有され協働できるよう、「自己を拡大する能力」を組織的に実践していたことの二重構造をもっていたことを見出した点で、理論看護学上価値ある研究として認められた。しかし、後者についての分析・考察は不十分で、本質論に導かれた管理実践の過程的構造の可視化に向けてより分析を進め、完成させるよう助言された。</p>				